

うつのみやまちづくり市民会議 議事録

会議の名称	市民会議（第5回市民福祉分科会）
開催日時	平成18年2月28日（火）午後6時30分から8時45分
開催場所	宇都宮市役所 会議室
出席者	（市民委員）伊達悦子会長、梅林孟副会長、新由美子委員、上野茂委員、江連京子委員、大堀導子委員、千保喜久夫委員、矢田部一郎委員 (市事務局)
会議内容	
会議資料	1. 第4回分科会 議事次第 2. 第5回資料
発言者	発言内容
進行	<p>それではこれから第5回分科会を行います。 (出欠確認、前回の議事録確認)</p> <p>当初3月に予定されていた全体会ですが、次回にもう一度分科会をはさんだ後、4月に行うことになりました。今日は引き続き重点課題について検討します。</p>
事務局	<p>前回宇都宮市には元気な高齢者が多いのか、という議論がございました。 関連するアンケート結果や統計を少し紹介します。</p>
事務局	<p>(資料説明)</p> <p>今日の検討では、重点課題をある程度の数に絞っていただきたいと思います。</p>
市民委員	<p>このような検討結果は事前に送っていただけると、前回までの議論を繰り返すことなく効率的に議論できると思います。</p>
各市民委員	(議論の結果を次々ページに整理)
進行	<p>本日重点課題はある程度の数に絞られましたが、次回の分科会では、議論し足らなかった点を補足したり、全体会での発表内容について議論したりしたいと思います。</p>
各市民委員	最後に次回の日程を決めたいと思います。
進行	3月27（月）18時30分からにしましょう。

また、4月は全体会のために分科会はない可能性もありますが、念のために4月24日（月）という予定でいましょう。

それでは以上で第5回の市民会議市民福祉分科会を終了します。ありがとうございました。

宇都宮市の重点課題（第5回市民福祉分科会検討結果）

※四角の枠囲みは重点課題としてはどうかという議論があったもの

○障害者福祉について

- ・ 障害者自立支援法を契機に障害者の社会参加への意識高まりつつある。
- ・ 障害者への理解（心のバイアフリー）は、進んでいない。
足の悪い人と単純に考えるのではなく、障害者も様々であることを理解してほしい。
- ・ そばに障害者いない。障害者と共に行動する機会が少ない。
- ・ 障害者の話を聞く機会が少ない。交流の機会が少ない。
- ・ 区別が差別につながることもある・

○健康づくりについて

- ・ 健康づくりへの取組が少ない、小さい。
- ・ 健康づくりは高齢者に限るべきではないものの、高齢者への対応は緊急の課題。
↓
 - ・ スポーツをしたいと思う場が少ない、遊ぶ場が少ない。
 - ・ 学校の施設が有効利用されていない。
 - ・ 部活する子供が減少している。
 - ・ よく食べ、よく噛む習慣がなくなっている。

- ・ 健康づくりへの高齢者への教育・啓蒙不足
(高齢者の参加を促す仕掛けづくりが必要)

- ・ 高齢者等への外出支援（ひきこもりへの対応）
↓

- ・ 外出したくなるような場所が不足
- ・ 交通網（足がない）の問題もある。

○ボランティアやNPO活動について

- ・ 地域のコーディネータ（仕掛け人）が育成されていない。
- ・ コーディネータが働きやすい（活躍しやすい）仕掛けづくり
(地域の人材発掘が必要)

○子育てについて

- ・ 子供の居場所が不足（学童保育が不十分）
 - ・ 子供と高齢者が触れ合う機会が少ない。
 - ・ 子育て力不足（子育ての仕方がわからない）
 - 地域での交流（コミュニティ）が不足
 - ・ ファミリーフレンドリー企業もあるが、
 - 親の長時間労働への対応が不足（長時間保育は是か？）
大企業への対応が不足（子育て、家族支援）
 - ・ 待機児童は多くないものの、多くの保育所が定員をオーバー → 保育士への負担重い
家庭等への子育て、家族支援が不足
- たとえば、1人親自立支援法のもとでは
- ・ 子供への保育
 - ・ 母親の就業の両方が必要

○市内の情報共有について

- ・ 市民の相談窓口はたくさんあるが、どこに聞いてよいかわかりにくい。
↑ 福祉ニーズはある日突然やってくる。
- ・ 困り事は何番に電話してよいのかわかりにくい。

○その他

- ・ 市の特徴（凹凸）がない。
- ・ 総合学習が充実しつつある。
- ・ 市民参加が活発にならないと、市民意識は変わらない。
- ・ 子供へ本などを読み聞かせることが減っている ⇒ 親への意識づけが不足
- ・ 防災対応（防災無線等）が不十分
→ 災害時に情報がいきわたるようにするべき。

以上